



## 淀川製鋼

## Environment Report 2015

～持続可能な社会の実現に貢献する企業として～

### ヨドコウ環境報告書2015

発行/平成27年10月 編集・発行/(株)淀川製鋼所 企画部 環境管理課  
〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号 ☎(06)6245-1119 FAX(06)6282-9176  
E-mail [kankyukanri@yodoko.co.jp](mailto:kankyukanri@yodoko.co.jp) URL <http://www.yodoko.co.jp/>

80th Anniversary  
創立80周年

ヨドコウ

## 自然環境と調和し共生を目指して

地球的規模での環境問題が深刻になっている現在、地球を守る企業活動が求められています。このような状況に応じて、1999年に企業活動の指針として「淀川製鋼所環境宣言」を作成し、以来全社を挙げ、地球の環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。

### 淀川製鋼所環境宣言

当社は創業以来、鉄鋼メーカーとして各種製品を社会に供給し、人々の生活向上に貢献してまいりました。

一方、人々の豊かな生活への追求が、地球規模での自然破壊や環境汚染につながり、現在では、地球環境汚染の解決が世界的な課題となっております。こうした顕在する地球環境問題に企業活動が密接に関わっていることを深く認識し、人類共通の財産である地球を、健全な状態で次世代へ引き継ぐことは、我々企業人に課せられた責務であると考えます。

以上の状況にかんがみ、私たちは、自然と調和し、共生する企業活動を行なっていくことを、ここに宣言いたします。

### 環境基本理念

地球環境の保全に  
貢献します。

自然環境調和型の  
企業活動を行います。

### 環境行動指針

#### 1. 環境保全意識の啓蒙

社員及び協力会社社員に環境教育を実施し、環境保全を認識して行動する人づくりを推進します。

#### 2. 事業活動における環境への配慮

- ❶ 全ての事業活動において、公害防止、省資源、省エネルギー、物流の合理化、廃棄物の削減・リサイクル等を行い、環境への負荷の低減に努めます。
- ❷ 製品開発に際しては、耐久性の向上に努め、再資源材料及びリサイクルし易い材料の採用など、廃棄による環境への負荷の低減に努めます。

#### 3. 社内組織の整備

以上を推進するため、本社及び各事業所の環境管理組織を強化し、環境保全活動に取り組めます。

# Environment Report 2015

～持続可能な社会の実現に貢献する企業として～

## CONTENTS



トップコミットメント ..... 03

特集:ヨドコウの環境対応商品 ..... 05

環境活動の目的・目標 ..... 07

環境マネジメントシステム ..... 08

マテリアルバランス ..... 09

環境会計 ..... 10

地球温暖化対策 ..... 11

生産部門

物流部門・オフィス部門

循環型社会の形成 ..... 13

廃棄物・有価物のリサイクルの促進

水の使用量低減・循環使用の促進

循環負荷物質の低減 ..... 14

PRTR対象物質の排出量、移動量の低減

揮発性有機化合物(VOC)の低減

微量PCB含有対象機器への対応

排水の水質管理

環境教育 ..... 15

地域社会と共に ..... 16

製品を通じた社会貢献 ..... 17

[参考資料]ヨドコウグループ概要 ..... 19



#### 報告対象組織

本報告書は、株式会社淀川製鋼所単体を対象としています。

#### 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2014年度版)」  
環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/policy/report/h24-01/>

#### 対象期間

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)



代表取締役社長 河本 隆明



持続可能な社会の実現に貢献する企業として、  
目に見える実質的な取り組みを強化・推進。

### 「環境宣言」に基づいた企業活動

当社は、1999年に掲げた『環境宣言』に基づき、「自然環境と調和し共生できる企業活動」に取り組んでいます。環境負荷の低減については、「地球温暖化対策」「循環型社会の形成」「環境負荷物質の低減」「環境配慮」の4つの分野に分けて、それぞれ対策を講じています。

鋼板・建築材料・エクステリア・ロール・グレーチングの各事業においては、より一層環境に配慮した商品の開発やサービスの提供に注力するとともに、生産過程での省エネルギー対策や環境負荷低減への取り組みを強化してまいりました。

2014年度については、大きな設備投資こそなかったものの、高効率機器の導入や運用の改善により、工場のエネルギー消費量を抑制し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しました。物流面では全体的な輸送量減に伴いCO<sub>2</sub>排出量は減少しましたが、モーダルシフト化率のアップには至らなかったことから、今後の課題としています。

環境保全への取り組みは、地道な活動の積み重ねが大切です。今後も継続的に社員の意識を高めながら様々な施策を実施して参ります。

### 地球環境保全対策のレベルアップ

当社では全ての鋼板工場でISO14001を取得し、地球温暖化問題への取り組みとして、エネルギー消費量の抑制とCO<sub>2</sub>排出量の削減を推進しています。各生産プロセスでは、より高効率な機器を導入し、工場内の照明設備についても電力消費の少ないLED照明に変更するなど細かな対策を積み重ねることで、効果へとつなげています。

また、2014年度は、2013年度の泉大津工場に続き、福井事業所・大阪工場及び関連会社にも太陽光発電システムを設置しました。全施設あわせて年間3,166MWhの発電量となり、省エネ・創エネの両面で環境保全に貢献しています。

その他の事業所についても、ISO14001及びISO14001規格を参考とした環境マネジメントシステムの取得を目指し、その過程を通じて、工場のみならず、本社をはじめとするオフィス部門でも環境保全や省エネに対する意識を高め、全社のレベルアップを図っています。

### 商品を通じて環境保全に貢献

商品面では、主力の一つである表面処理鋼板の中でも、環境負荷物質である六価クロムを含まない「クロメートフリー鋼板」の開発と普及に注力しています。この商品は環境負荷物質の制限にいち早く取り組んだ家電業界向けに開発した商品であり、現在では建築業界向けの商品展開も行い、外装材用として「エコグリーン」シリーズを発売しています。また昨年10月に、ヨド耐火パネル「グランウォール」を発売しました。

この商品は耐火性に優れた断熱素材“ロックウール”を芯材に使用した、建物内の温度変化を抑制する環境対応商品です。耐久性・意匠性にも優れている点が高く評価され、工場や倉庫、事務所などの外壁としてはもちろん、大型商業施設の外壁材としても採用されています。今後はオフィスビルの外壁にも採用が見込まれています。

これらの商品につきましては、新商品の開発と共にPRが大切だと考えています。環境対応商品の有用性をお客様にご理解いただき、市場の開拓・成長を進めて参ります。

地球環境保全への取り組みにつきましては、世界的な流れを受けて、海外の関係会社でも進めています。台湾のSYSCO社、タイのPPT社では、ISO14001を取得し、中国のYSS社も2015年度の取得を目指しており、またクロメートフリー鋼板の生産も行っております。

当社はクロメートフリー鋼板のパイオニアとして、今後も社会の要請に応え、継続的な商品開発・PRを行い、環境負荷低減へより一層の貢献をいたします。

### 自然と調和し共生する企業としてさらなる成長を目指す

当社は2015年1月に、創立80周年を迎えました。

長年にわたり培ってきた技術・ノウハウにより、社会にさまざまな商品を送り出し、サービスを展開してまいりました。

今後も、社会や地球環境の問題解決に目を向けた企業活動を行い、持てる技術力を発揮することにより、お客様から信頼され、社会の持続可能な発展に貢献できる企業であり続けることを使命とし、引き続き取り組んでまいります。

# ヨドコウの環境対応商品

～人と地球にやさしい暮らしを支える技術～

当社では優れた機能性・安全性と、環境や景観への配慮を兼ね備えた“人と地球にやさしい”商品の開発を積極的に進めています。ここでは、一般家庭から大型建築物まで、暮らしの中の様々なシーンで活躍する「環境対応商品」を分野別にご紹介します。



## 太陽光発電 ヨドソーラーパネル「ファインソーラー」



屋間の電力需要ピークの緩和や温室効果ガス排出量の削減に効果が高い太陽光発電システムの軽量化を実現。当社が培った屋根に関する設計や施工技術により、短工期で外壁や屋根への設置を可能にしています。



## 屋上緑化

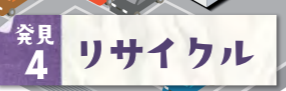
**ヨドルーフファイングリーン**  
ユニット化された緑化トレイを金属折板屋根の上に直接並べ、専用金具で固定するだけの施工性に優れた屋上緑化工法を採用。軽量かつ専用下地や防水層の施工が不要なため、建物に負担をかけずに短工期で導入できます。乾燥に強く屋上緑化に適した植物(セダム・コケ)が建物への熱の蓄積を抑制し、省エネやヒートアイランド現象の緩和に効果を発揮します。



キッザニア甲子園 屋上



## 省エネ



## リサイクル



## ヒートアイランド対策



## 高耐久性表面処理鋼板

**「エコグリーン」シリーズ**  
当社が業界で初めて開発・商品化を実現したクロメートフリー鋼板「エコグリーン」シリーズ。環境負荷物質である六価クロムを一切含まない環境へのやさしさと優れた耐久性・意匠性を併せ持ち、冷蔵庫や洗濯機、電子レンジなど身近な家電製品のみならず、建材分野にも多数採用されています。



## 金属製外装材

### ヨド耐火パネル「グランウォール」 **新商品**

耐火性に優れた住宅建築物向け金属製外装材です。ロックウールの優れた耐火断熱効果により一年中、快適な室内環境を維持し、省エネルギーやCO<sub>2</sub>削減による地球温暖化防止に貢献しています。

- その他 環境対応型 屋根・壁材
- ・ヨドファインパネル
  - ・ヨドファインルーフ90
  - ・ヨドファインeパネル 等



大塚倉庫前 西日本ロジスティクスセンター

## VOICE

### 耐火性能が高く、環境に配慮した高機能金属製外壁パネルを開発

グランウォールは、昨年発売した金属製外壁パネルの新商品です。表裏2枚の鋼板のうち、表面材にクロメートフリー鋼板を使用し、芯材に断熱性能が高く、リサイクル可能なロックウールを挟むことにより、環境に配慮しつつも高い耐火性能を実現しました。開発にあたっては、最適な断熱素材、商品形状等、様々な角度から検証を行い、2014年3月に、国土交通省より耐火1時間構造認定を取得しました。その高い機能性と省施工性が認められ、大型商業施設等の外壁材にも採用されています。今後も建物を災害から守りつつ、快適な居住空間づくりに貢献できる商品を開発していきたいと思っております。



開発本部開発部企画開発第二グループリーダー 谷村 明彦



## グレーチング

原材料にリサイクル比率を高めた鋼材を使用し、排水性はもちろん安全性や耐久性にも優れた環境と防災に対応した商品です。特に「ヨドクリスタルグレーチング」では、廃ガラスびん・陶磁器などの回収資源を粒状に砕いて再利用しており、使用した素材の色味により、周囲の景観にもマッチする高い美観性も備えています。

- ・ヨドウォーターフォールズ
- ・ヨドかるがるグレーチング
- ・ヨドEXグレーチング
- ・ヨドグレーチング さびガード 等



## 環境活動の目的・目標

評価：◎達成、○70%の達成、△未達成

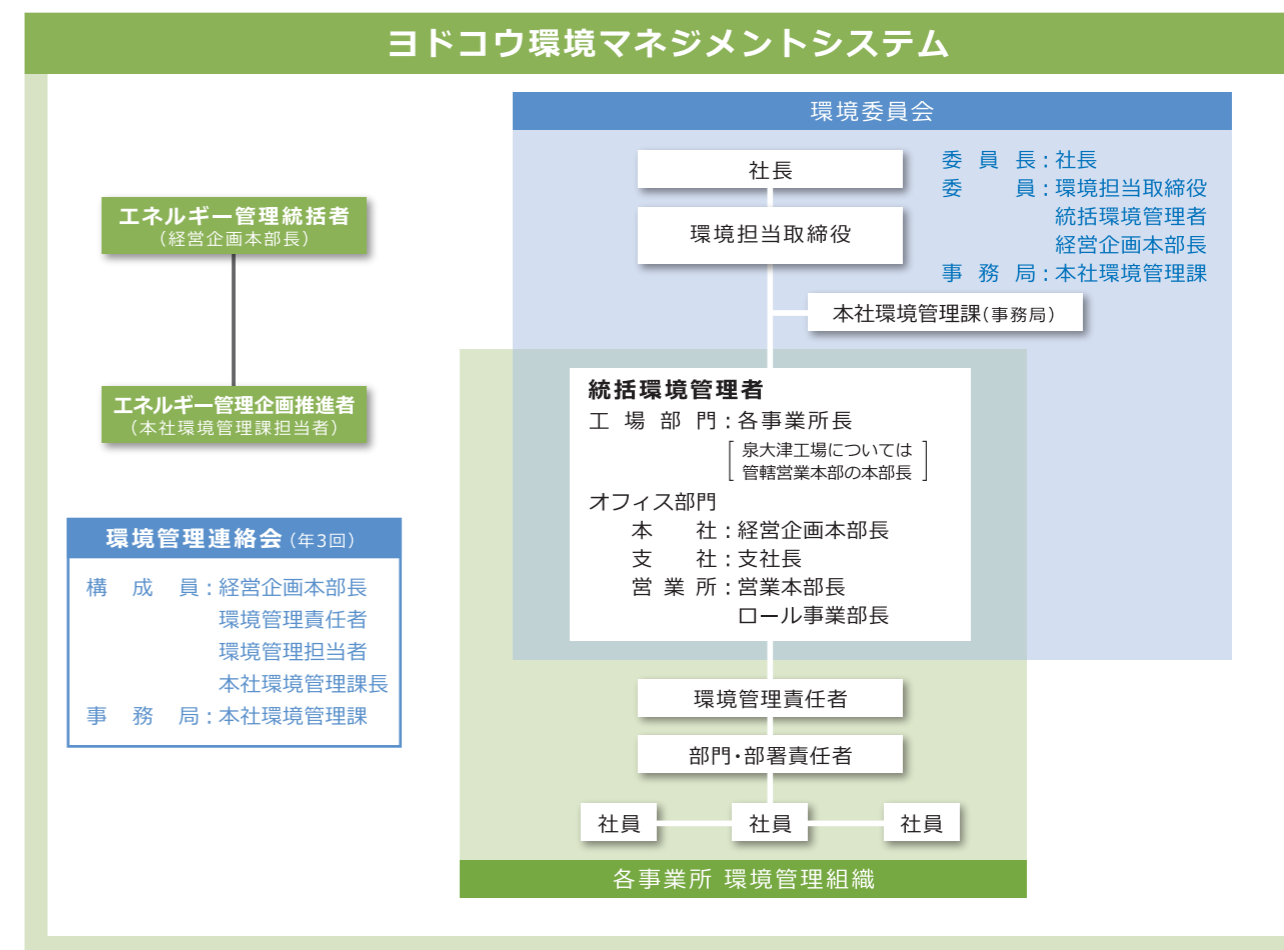
取組内容	2014年度目標	2014年度活動内容	評価	2015年度目標	ページ
地球温暖化防止	生産部門でのCO <sub>2</sub> 削減	日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画の目標(2020年にBAU※1比で500万トンのCO <sub>2</sub> を削減)を達成するため、地球温暖化防止対策を継続して取組む	◎	地球温暖化防止対策に継続して取り組み、年間800 t-CO <sub>2</sub> (前年度比-0.5%)の削減を目指す (日本鉄鋼連盟の低炭素社会実行計画に参画)	11
		製造ラインヤード、倉庫ヤード、付帯設備へのLED照明化を拡大			
		カラーライン脱臭装置や、各工場内のポンプ、ファン等の運転条件を最適化			
輸送でのCO <sub>2</sub> 削減	モーダルシフト化率アップ	納期対応等によりモーダルシフト化率が前年度比7.6ポイント悪化 CO <sub>2</sub> 排出量は輸送量の減少により10%減少したが、原単位では4%悪化	△	モーダルシフト化率をアップし、『エコルールマーク』の再取得	12
オフィス部門でのCO <sub>2</sub> 削減	照明の省エネ化	照明の間引き点灯、不要時消灯等を行い、エネルギー消費量を前年度比4.2%削減 CO <sub>2</sub> 排出量は、電気事業者によるCO <sub>2</sub> 排出係数悪化の影響で4.4%増加 その他、夏季節電活動の徹底やクールビズの推進をおこなった	○	夏季の消費電力量を前年度比1%削減 空調設定温度28℃の徹底 クールビズの推進	
循環型社会の形成	省資源の推進	リサイクルの推進(継続目標) 鉄源のリサイクル推進 廃油の再資源化 紙の再資源化	◎	分別方法や収集先の見直しによるリサイクル率アップ	13
		省資源の取組 梱包木材の使用量削減 ペーパーレス化の推進	○	原材料、副原料、資材の徹底的な有効活用	
		廃棄物の削減 廃プラスチック廃棄量削減 処分委託先の見直し	△	梱包材の使用方法を見直し、廃プラスチック等、廃棄物の削減に引き続き取り組む	
環境負荷物質の低減	VOC排出量の削減	VOC排出量を2010年を基準年とし、悪化させない	◎	カラーライン脱臭装置(蓄熱式)を未設置の製造ラインへ導入することによりVOC排出量の低減	14 5 15
	有害化学物質の全廃	クロメートフリー商品の拡大 六価クロムの使用量低減	◎	クロメートフリー商品の開発	
	化学物質の管理強化	有害物質の適正保管 PRTR法遵守 微量PCBの処分	◎	PCB含有機器の処分 有害化学物質漏洩対策の徹底 環境関連情報・法規の共有化	
環境配慮	製品への有害化学物質非含有保証の対応	有害化学物質非含有保証書の英文版の作成	△	法規に即した顧客要求への対応継続(SDS書式の変更)	14
	地域社会への貢献	地域社会とのコミュニケーションの向上(継続目標)	◎	地域社会とのコミュニケーションの向上(継続目標)	16
	環境配慮製品及び技術の開発による社会貢献	クロメートフリー商品の開発 塗装仕様の確立	◎	クロメートフリー商品開発と拡販を行うことにより、六価クロムの取扱量の低減を目指す	17
環境活動の推進とリスク管理の徹底	環境マネジメント体制の推進・地域環境整備・避難訓練の実施	◎	環境関連資格者の養成 環境保全活動の情報共有 環境リスク管理の強化	8 ・ 15	

※1 BAU : (Business as Usual の略)特段の省エネ・CO<sub>2</sub>削減対策を実施しなかった場合。

## 環境マネジメントシステム

環境基本理念の下、地球環境問題に対応し、環境負荷の低減を行う取組をすすめています。環境保全に対する規制や要請に対応しつつ、より積極的に取り組むため「ヨドコウ環境マネジメントシステム」を構築しています。

社長を委員長とし、環境担当取締役、事業部門の担当役員からなる「環境委員会」を設置し、全社的な基本事項を決定します。また各事業所の環境管理責任者及び環境管理担当者による「環境管理連絡会」を定期的開催することにより、環境管理の協議調整や全社方針等必要事項の周知徹底を図っています。



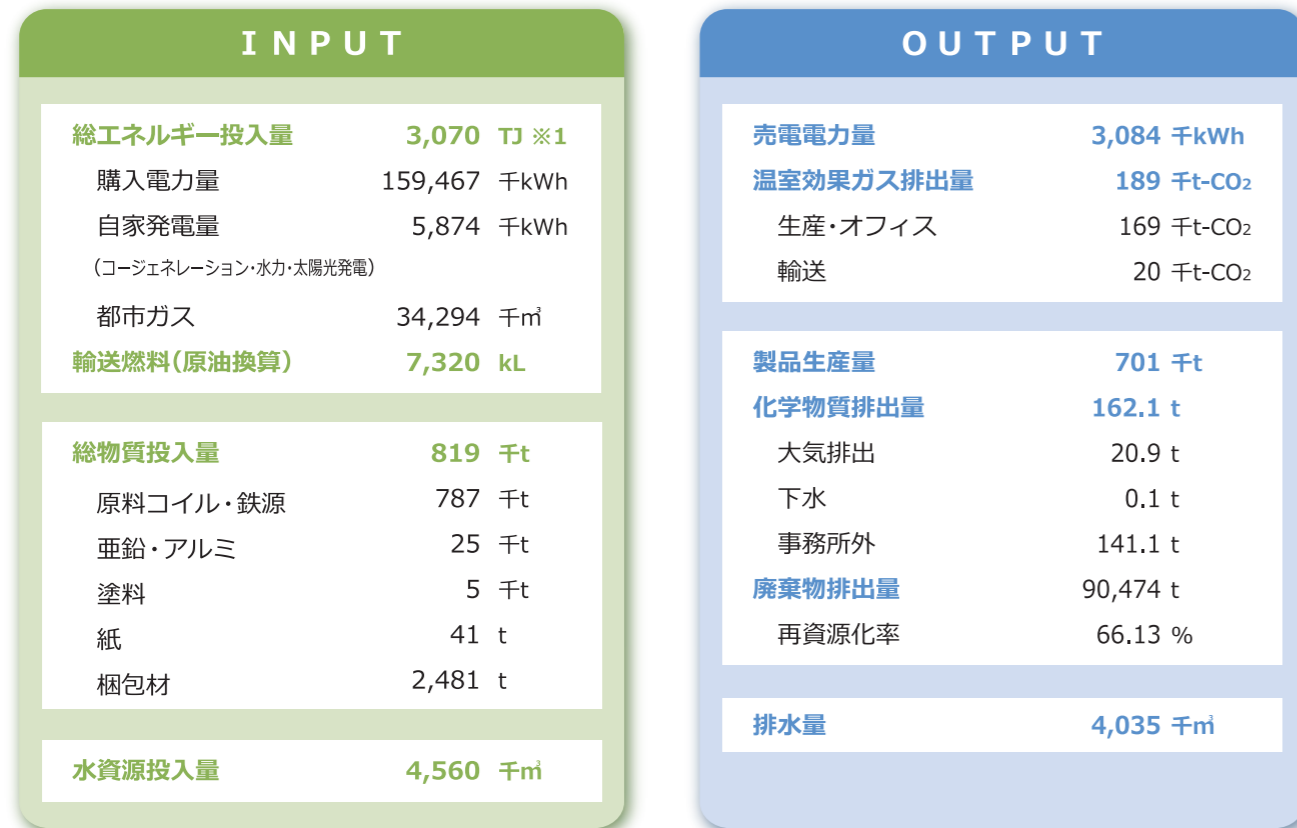
## ISO14001認証取得事業所

生産部門の主要3工場では、環境負荷低減のための環境保全活動を定期的に行い、その活動を管理し、向上させるためにISO14001の認証を取得しています。

事業所	登録年月	更新年月	登録範囲	登録番号	審査登録機関
市川工場	2000年6月	2015年6月	冷間圧延、表面処理の鋼板及び鋼帯の製造に係わる事業活動	E143	JICQA
大阪工場	2000年12月	2012年12月	表面処理鋼板、鋳鉄ロールの製造に係わる事業活動	E193	
呉工場	2000年12月	2014年10月	冷間圧延鋼帯及び表面処理鋼帯の製造に係わる事業活動	E203	

## マテリアルバランス

当社は、鋼板関連、ロール、グレーチングの3事業を中心に展開しており、それぞれの製造過程では、水の循環利用・廃棄物などの分別リサイクル利用を進め、それとともに太陽光発電、水力発電など再生可能エネルギーの導入、コージェネレーションシステムの導入など、省エネルギーやCO2排出量の削減が期待できる諸施策を実施しています。



### 工場生産

- 冷延鋼板
- めっき鋼板
- 塗装鋼板  
(クロメートフリー鋼板等)
- エクステリア製品  
(物置・ガレージ等)
- 金属屋根・壁材
- ロール
- グレーチング

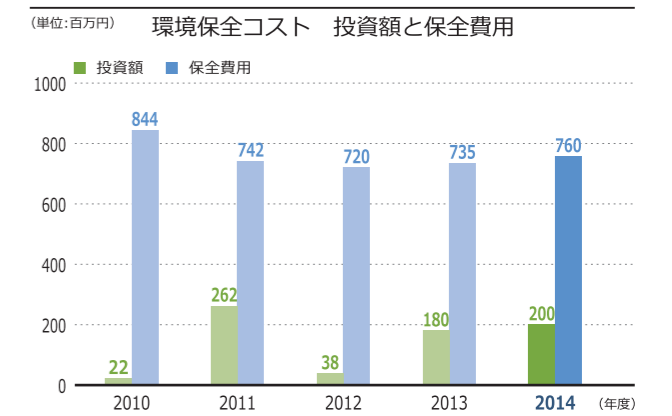
※1 TJ (テラ・ジュール) : 1兆ジュール(=10の12乗ジュール)

## 環境会計

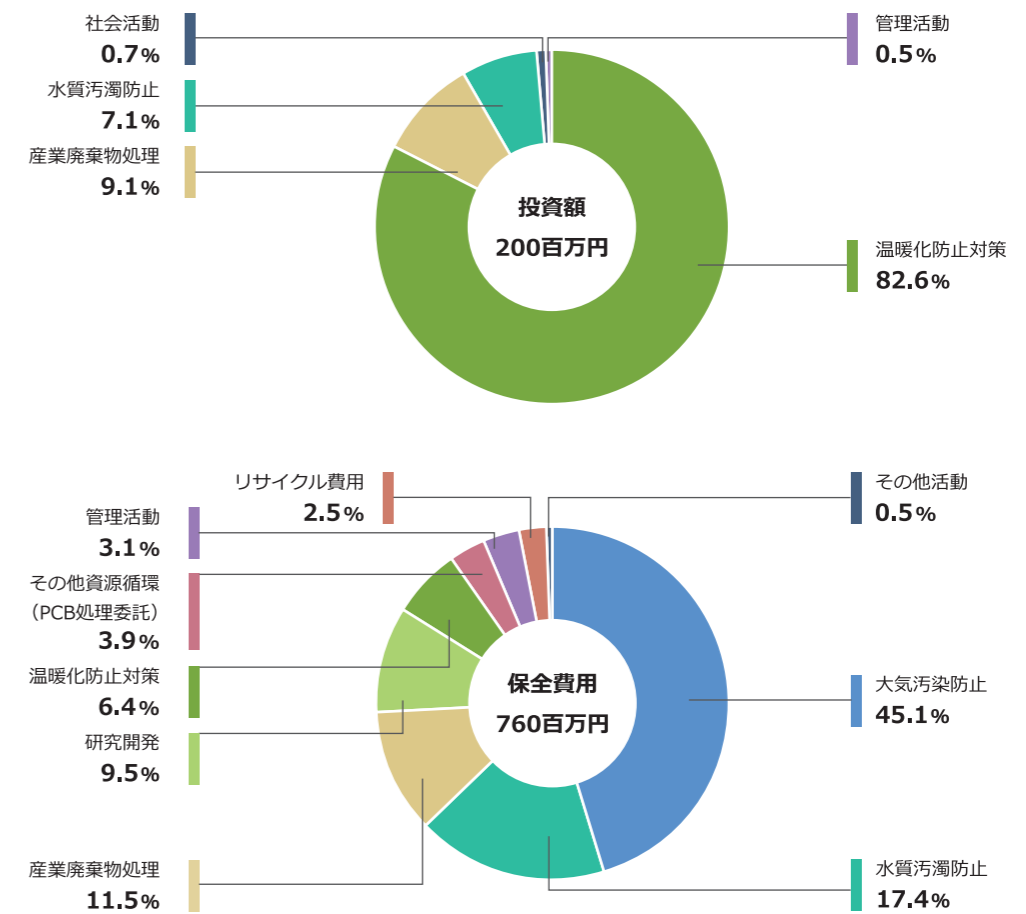
事業活動を行う上で、環境を損なうことがないように環境負荷発生の防止や抑制等、環境保全の取組を効果的に行うための指標として、環境保全コストを把握しています。

2014年度の環境保全コストは、受電変電所の更新や廃液処理装置のポンプ更新等に、200百万円を支出しました。

また保全費用は、760百万円となり、そのうち大気汚染防止対策45.1%、水質汚濁防止対策17.4%、副産物・産業廃棄物処理に11.5%等、主に公害防止や資源循環の為に支出となりました。



### 2014年度 環境保全コスト内訳



## 地球温暖化対策

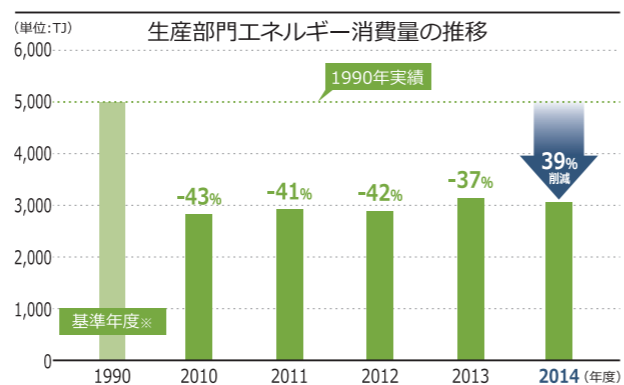
地球温暖化対策や電力需給対策として、各事業所でエネルギー使用の合理化や、設備・装置の高効率化など、継続的な省エネルギーへの取り組みを行っています。

### 生産部門での取り組み

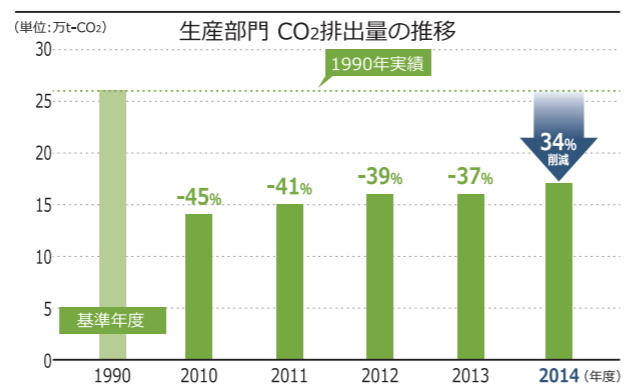
2014年度は、大きな設備更新や導入はなく、既存の生産設備の高効率化改造や運用改善、各工場ヤード内の照明改善等、細やかなエネルギー消費削減対策を行いました。エネルギー消費量は、生産量が微減したことから、前年度比2.7%の減少となりました。また基準年である1990年度との比較では、39%の削減となりました。CO<sub>2</sub>排出量は、1990年度比34%削減しましたが、前年度比では4.4%増加しました。これは、「電気事業者によるCO<sub>2</sub>排出係数」の悪化による影響です。

泉大津工場では、受電変電設備を更新し、容量の適正化とトップランナー機器導入による無負荷損失の削減を行いました。この削減効果をCO<sub>2</sub>換算すると約90t-CO<sub>2</sub>/年になります。

呉工場では、カラーラインのヒーターをスチーム式から電気式へ改造することで、エネルギーの使用効率改善を図りました。その他各工場内の製造ラインヤードや倉庫ヤード、付帯設備照明などのLED化を拡大させました。



※ 基準年度：京都議定書の規定による基準年



泉大津工場 受電変電設備の更新



呉工場 カラーライン脱臭装置  
高い排ガス処理能力と省エネ効果で、環境保全に貢献しています

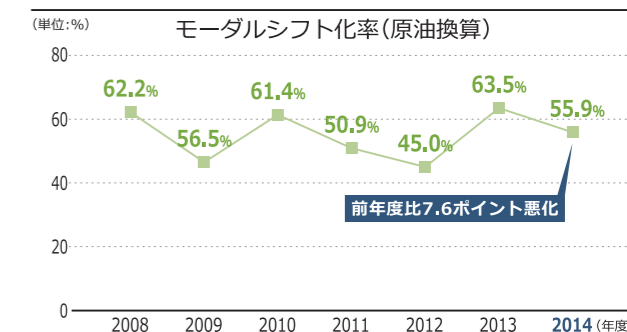
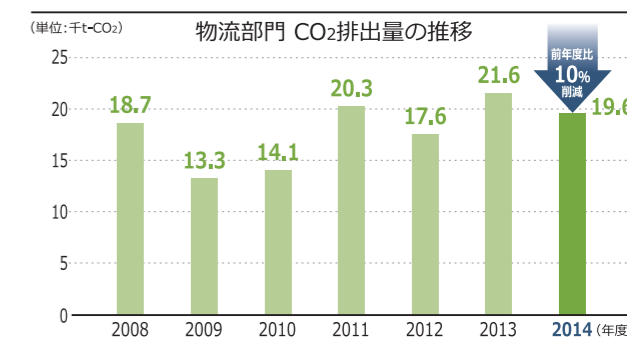
### 物流部門での取り組み

当社の物流は、輸送貨物・輸送先に合せて、トラック・トレーラーによる陸上輸送、コンテナによる鉄道輸送、内航船・フェリーによる海上輸送を組合せています。陸上輸送では積載率の向上や環境性能の高い車種へのシフトなどの対策を行っておりますが、よりCO<sub>2</sub>排出量を抑えることができる鉄道輸送や海上輸送への継続的なモーダルシフトを進めております。

2014年度も、継続目標である「モーダルシフト化率※アップ」に取り組みましたが、商品の納期対応等の理由により陸上輸送の比重が増し、結果として前年度比7.6ポイント悪化の55.9%となりました。

CO<sub>2</sub>排出量は、前年度比10%減少しました。これは、輸送量が減ったことが主な理由です。

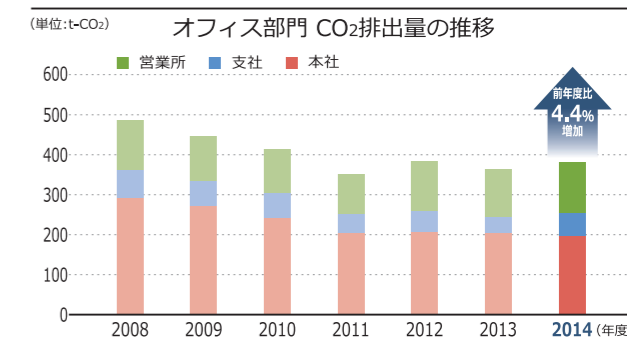
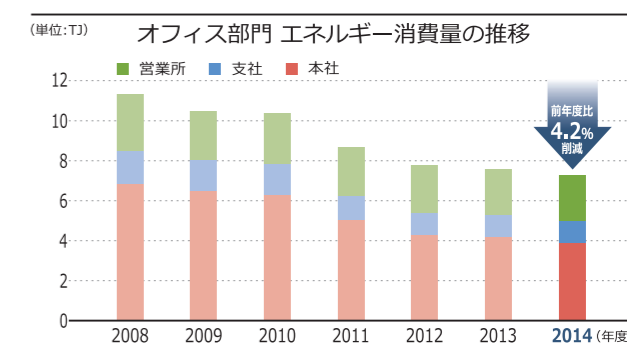
※ モーダルシフト化率(原油換算)  
計算式：(鉄道輸送+海上輸送) / (鉄道輸送+海上輸送+トラック輸送)



### オフィス部門での取り組み

オフィス部門では、取り組んだ省エネ活動の結果情報を共有することにより、意識の定着に努めています。夏季には節電対策期間(7月~9月)を設け、週2日のノー残業デーの設定や空調設定温度28℃の徹底等の取り組みを行い、冬季には、過剰な暖房を抑制(室温20℃)などウォームビズに賛同した活動を行っています。

2014年度のオフィス部門(本社・支社・営業所21カ所)のエネルギー使用量は前年度比4.2%削減しましたが、CO<sub>2</sub>排出量は、『電気事業者によるCO<sub>2</sub>排出係数』の悪化が影響し、前年度比4.4%増加となりました。



## 循環型社会の形成

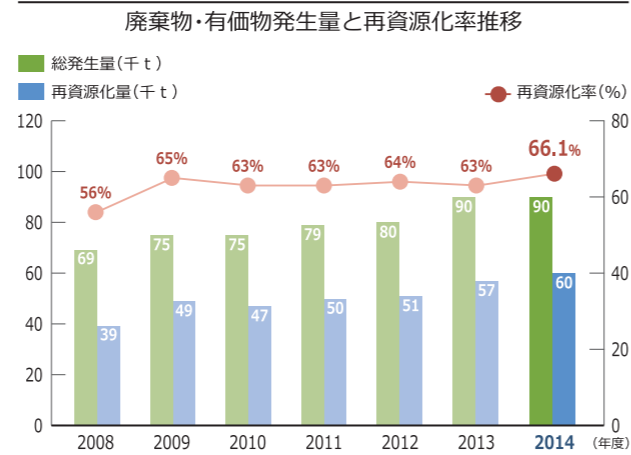
### 廃棄物・有価物のリサイクルの促進

生産活動において発生する廃棄物及び有価物には、汚泥、廃油、鋳さい、鉄くずなどがあります。

当社では、それらの再資源化に取り組んでおり、汚泥はセメント原料に、廃油は再生油や補助燃料に、鋳さいは路盤材にそれぞれ利用されます。また、処分委託業者を定期的に訪問し、処分の現地確認を行う等、確実な廃棄物処分を心掛けています。

廃棄物・有価物の総発生量は、2014年度90千tとなり、前年度とほぼ同じ発生量でした。再資源化については、再資源化可能な処理業者を選定するなどの取り組みを推進し、前年より3.2ポイント増え、66.1%の再資源化率となりました。

各事業所では、廃棄物の処理方法の改善や徹底した分別収集を行うことにより、廃棄物の減量と再資源化の推進に取り組んでいます。



## 環境負荷物質の低減

### PRTR法対象物質の排出量、移動量の低減

当社では、PRTR法※1及び条例に基づき、化学物質の適正な保管や管理を行い、その排出量※2や移動量※3を低減させる活動に取り組んでおり、その結果を各事業所が所属する自治体に報告しています。

2014年度は、化学物質を多く取り扱うカラー鋼板製品の生産量が減少したことに加え、使用する処理薬液の化学物質含有量をより確度の高い数値に見直したことで、PRTR法対象物質の取扱量が前年度比13.3%減少しました。排出量は6.8%減、移動量は1.6%減となりました。

また、製品含有物質関連法規制に対応し、化学物質管理に関する社内規定を整備し、SDS※4や不使用保証書等の発行によりお客様への正確な情報提供を行っています。RoHS指令※5やREACH規則※6等の海外の法規制に関しても、顧客の要求に対応しております。

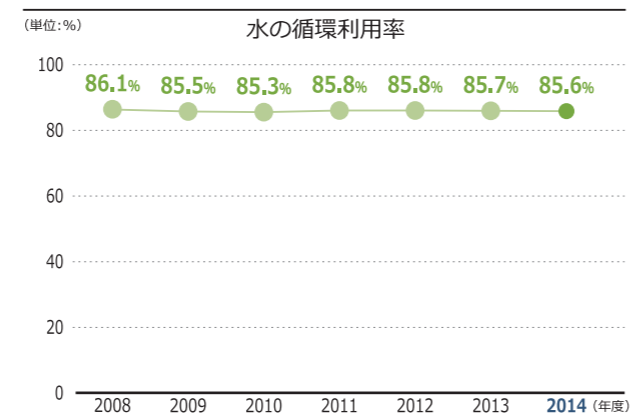
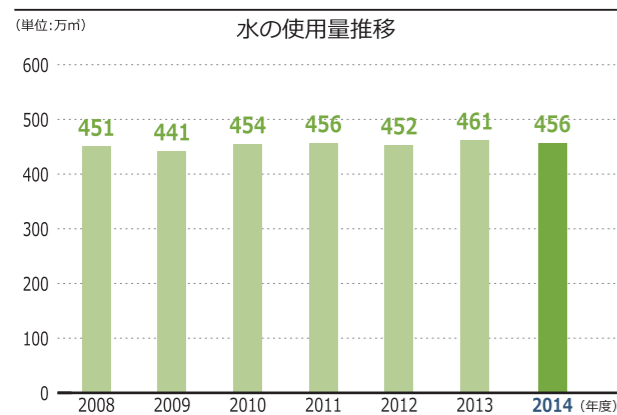
2014年度 PRTR法に基づく届出排出量及び移動量 (単位:トン/年)

政令番号	物質名	排出量				移動量	
		大気	公共用水	土壌	自所内埋立	下水道	事業所外
53	トリクロロエチレン	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	31.3
80	キシレン	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	64.2
83	メタン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
87	加鉛及び3価加鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
88	6価加鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.02	1.0
277	トリクロロエチレン	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリクロロエチレン	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8
297	1,3,5-トリクロロエチレン	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
300	トルエン	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5
302	ナフタレン	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
305	鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
309	ニッケル化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03	0.7
321	パラジウム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
411	ホルムアルデヒド	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3
412	マカロン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
総計		20.9	0.0	0.0	0.0	0.05	141.1

- ※1 PRTR法 : (Pollutant Release and Transfer Registerの略)「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」日本では1999年に法制化
- ※2 排出量 : 事業所から排出された量
- ※3 移動量 : 事業活動に伴って排出される産業廃棄物を処理業者に委託して場外へ移動する量、及び下水道に排出する量
- ※4 SDS : (Safety Data Sheetの略)安全データシート。化学物質や化学物質が含まれる原材料などを安全に取り扱うために必要な情報を記載
- ※5 RoHS指令 : (Restriction of Hazardous Substancesの略)電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令
- ※6 REACH規則 : (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicalsの略)人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会及び欧州理事会規則

### 水の使用量低減・循環使用の推進

水の使用量低減に向け、工場内設備の冷却水の循環利用に取り組んでいます。

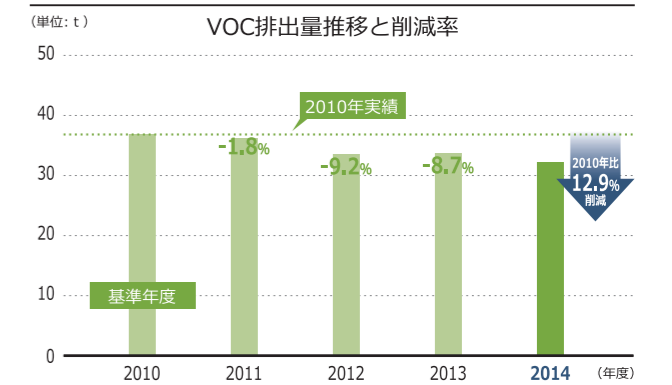


### 揮発性有機化合物 (VOC※1) の削減

揮発性有機化合物(VOC)についても排出濃度を定期的に測定し、基準値以下であることを確認しています。

当社では、日本鉄鋼連盟の自主行動計画に参画しており、その行動目標である「2010年度の排出状況から悪化させない」ことを自社の目標とし、VOC排出量削減に取り組んでおります。

2014年度の排出量は、前年度比4.6%削減となり、2010年度比では12.9%の削減となっております。削減した要因としては、カラー鋼板製品の生産量が減少したことがあげられます。



- ※1 VOC : 揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compoundsの略) 塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質



## 微量PCB含有対象機器への対応

微量PCB含有が疑われる使用済みトランスやコンデンサ等の電気機器について含有調査を行い、含有が確定したものに關しては、法令に基づき、自治体への届出と適切な管理を行っています。

2013年度からは生産部門の全事業所で処分計画をたて、処分委託及び運搬委託先との調整を行い、順次処分を実施しており、2014年度も引き続き処分を実施しました。

## 排水の水質管理

当社各事業所の廃液処理設備では、生産設備から発生した廃水を凝集沈殿処理し、その後濾過、中和等で浄化し、公共用水域に排出しています。

最終排水槽の水質監視については、pH計や油分検知器を設置し継続的に監視、社内と外部の検査機関による計測を定期的に行い、その測定結果を各自治体に報告しています。水質総量規制※1の対象事業所については、別途、UV計※2等を設置し、排出される有機性汚濁物質の総量を監視しています。

※1 水質総量規制：総量規制基準が適用されている指定地域内(瀬戸内海、東京湾、伊勢湾)へ排水を排出する者は、規制対象となる指定項目(化学的酸素要求量(COD)、窒素、りん)について排水の汚濁負荷量を測定し、総量規制基準を遵守しなければならない  
(水質汚濁防止法第12条の2、第14条第2項)

※2 UV計：有機性汚濁物質測定装置



呉工場 表面処理工場廃液処理設備



市川工場 総合廃液処理設備

## 環境教育

当社は、環境マネジメントシステムに基づいた環境経営を継続的に行うため、環境保全の実務に取り組む人材を育成するとともに、社員の環境意識の向上を図っています。社会をとりまく環境問題の歴史や、それに伴う取り組みの変化を説明し、企業活動を行う上での環境マネジメントシステムの必要性や環境方針・取り組み等、環境への理解を深める活動を行っています。

年3回開かれる「環境管理連絡会」では、環境に関連するリスクマネジメントの推進のため、それぞれの事業所の環境担当が参加し、情報交換や勉強会を行い、知識の向上を図っています。

## 地域社会と共に

### 各事業所の取り組み

#### 呉工場



呉工場周辺の街路や海沿いの公園など、春と秋の2回清掃を行いました。



#### 大阪工場



近隣遊歩道の清掃を実施しました。  
その他の活動としては、大阪市条例第9条に基づくごみの減量に取り組んでおり、2014年度には、5年連続で優良評価を受け、大阪市より表彰されました。

#### 市川工場



市川港開発協議会主催の清掃活動に年2回参加し、市川工場周辺の道路や堤防などの美化に取り組みました。

#### 本社



『大阪マラソン』とタイアップした大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、美しいまちづくりのため、本社ビル周辺の清掃活動を実施しました。(2014年10月)



SAKURA+PROJECT (サクラプラス・プロジェクト) への協賛



SAKURA+PROJECTとは、日本人の好きな花、そして見る人に元気を与えてくれる“桜”を、東北の被災地に植樹し、多くの人を惹きつける新たな名所を創ることで、震災からの復興を中長期的に後押しするプロジェクトです。

当社は、2012年3月よりヨド物置エスモ、エルモ全機種の上の一部を協賛・寄付しており、今後も継続的に植樹を行ってまいります。



2012年に植樹した桜も大きく育ちました。(岩手県大槌町)



2015年3月 福島県南相馬市での植樹

商品を通じた社会貢献

クロメートフリー鋼板 エコグリーンシリーズ

亜鉛めっき鋼板・カラー鋼板・ガルバリウム鋼板で、六価クロムを含まず耐久性を備えたクロメートフリー鋼板「エコグリーン」シリーズを開発してきました。外装用カラー鋼板でも、業界初のクロメートフリー化を実現しております。お客様の環境負荷物質に対するニーズにいち早く対応した商品を通して、地球の環境保全に貢献してまいります。



耐火・断熱パネル&断熱屋根材  
(グランウォール・ファインパネル・ファインルーフ)

事務所、倉庫、工場などの壁材、屋根材に適した内外装一体のパネルで、断熱材を表裏2枚の鋼板でサンドイッチにした断熱効果の高い商品です。今後は、オフィスビルの外壁への採用が見込まれています。

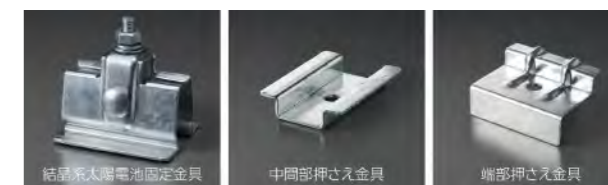


もりのみやキューズモールBASE(大阪市)

太陽光発電システム

当社がこれまでに培った屋根に関する設計ノウハウや施工技術などを基に、高強度、且つ軽量の太陽光パネル取付金具を開発しました。専用金具でパネルを安全に設置していただくことが可能です。

荷重条件の厳しい建物には、約7.5kg/m<sup>2</sup>の超軽量パネル(パネル:6.5kg/m<sup>2</sup>、取付金具:1.0kg/m<sup>2</sup>)もご提案可能です。



TOPICS

年間約3,166MWhの電力を発電  
年間約1,757tのCO<sub>2</sub>削減効果

2014年度、新たに福井事業所・大阪工場等の屋根上や地上に太陽光発電システムの設置を行い、2013年度の2.5倍である3,166MWhを発電しました。年間約1,757tのCO<sub>2</sub>削減効果が見込まれます。



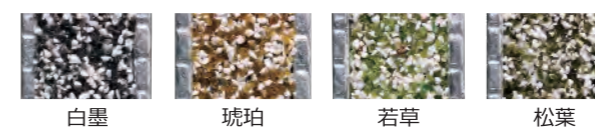
福井事業所

ヨドクリスタルグレーチング

回収資源を再利用した環境にやさしく、デザイン性の高いグレーチングです。



<色相の例>



粒状に砕いた廃ガラスびんと廃陶磁器等との混色により、景観を損なわない落ち着いた色相も表現できる景観及び環境商品です。

# ヨドコウグループ概要 (2015年3月31日現在)

## 会社情報

**会社名** 株式会社淀川製鋼所 (Yodogawa Steel Works, Ltd.)  
**設立** 1935年1月30日  
**資本金** 232.2億円  
**売上高** [連結] 1,758億円  
 [単体] 1,058億円  
**従業員数** [連結] 2,496人  
 [単体] 1,197人  
**国内拠点** 本社、支社、工場 (大阪・呉・市川・泉大津)  
 福井事業所、営業所・出張所 22カ所

## 主要事業拠点・生産工場

### 本社

〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号  
Tel: 06-6245-1111

### 支社

〒104-0041 東京都中央区新富1丁目3番7号(ヨドコウビル)  
Tel: 03-3551-1171

### 生産工場

#### 大阪工場

事業内容: 表面処理鋼板・建材・エクステリア商品・ロールの製造  
〒555-0044 大阪府大阪市西淀川区百島2丁目1番21号  
Tel: 06-6472-1251

#### 呉工場

事業内容: 冷延鋼板・表面処理鋼板の製造  
〒737-0027 広島県呉市昭和町9番1号  
Tel: 0823-25-1111

#### 市川工場

事業内容: 冷延鋼板・表面処理鋼板の製造  
〒272-0011 千葉県市川市高谷新町5番地  
Tel: 047-328-1231

#### 泉大津工場

事業内容: グレーチングの製造  
〒595-0052 大阪府泉大津市西港町18番14号  
Tel: 0725-32-5681

#### 福井事業所

事業内容: 建材・エクステリア商品の製造  
〒913-0038 福井県坂井市三国町新保テクノポート1丁目2番2号  
Tel: 0776-82-2021

### 国内連結子会社 (4社)

#### ① 高田鋼材工業 (株)

事業内容: 鋼板の加工販売、倉庫業  
〒551-0023 大阪市大正区鶴町5丁目3-50  
Tel: 06-6552-7701

#### ② 淀鋼商事 (株)

事業内容: 鉄鋼卸業  
〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号  
ヨドコウビル5F  
Tel: 06-6241-7231

#### ③ 京葉鐵鋼埠頭 (株)

事業内容: 港湾運送業及び倉庫業  
〒272-0011 千葉県市川市高谷新町5番地  
Tel: 047-328-3561

#### ④ ヨドコウ興発 (株)

事業内容: ゴルフ場、駐車場、ビル等の警備・管理  
〒541-0059 大阪市中央区博労町4丁目2番15号  
ヨドコウ第2ビル9F  
Tel: 06-6245-8830

### 海外連結子会社 (3社)

#### ⑤ 盛餘股份有限公司 (SYSCO 社)

事業内容: 鋼板製品の製造、販売  
No. 11 Chung Lin Rd., Hsiao Kang, Kaohsiung, 81260  
Taiwan, R.O.C.  
Tel: 010-886-7-871-5262

#### ⑥ 淀川盛餘 (合肥) 高科技鋼板有限公司 (YSS 社)

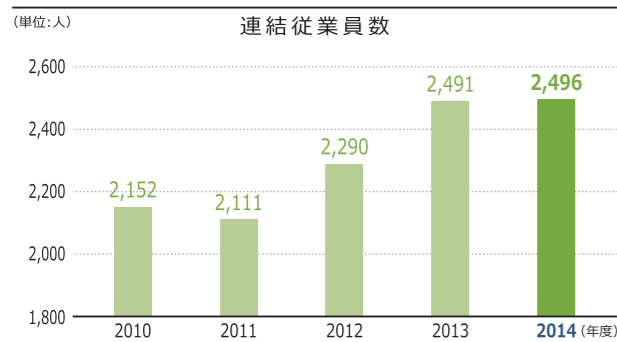
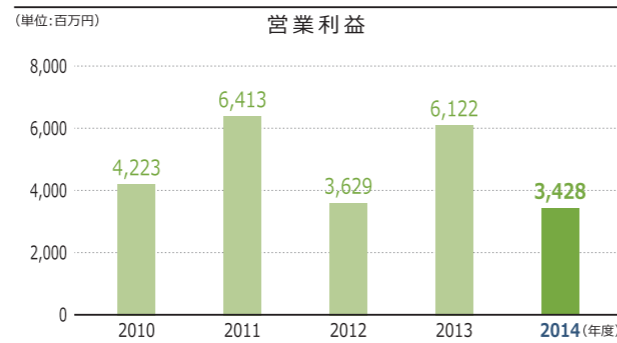
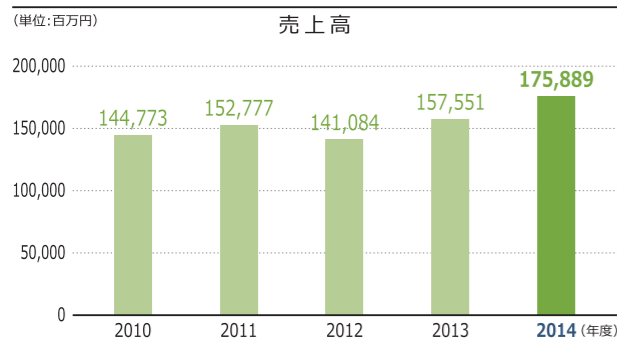
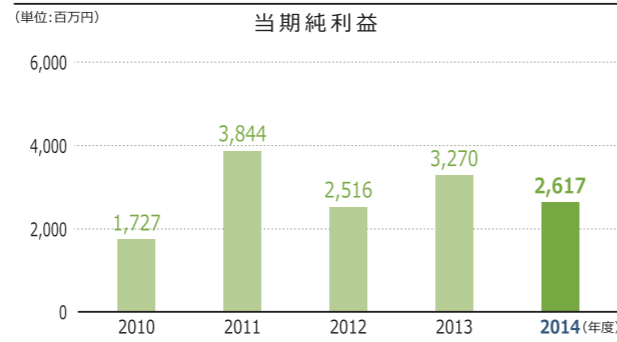
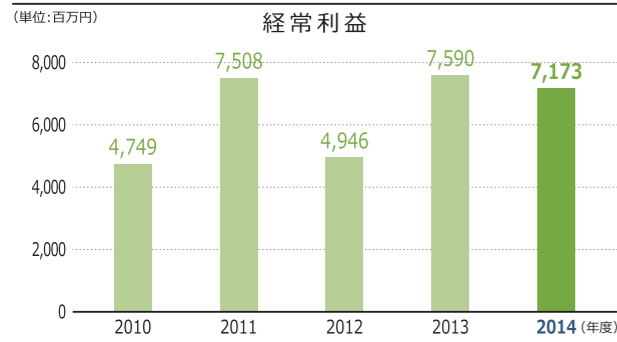
事業内容: 表面処理鋼板の製造ならびに販売  
安徽省合肥市经济技术开发区蓬莱路2551号  
Tel: 010-86-551-6255-2551

#### ⑦ PCM PROCESSING (THAILAND) LTD. (PPT 社)

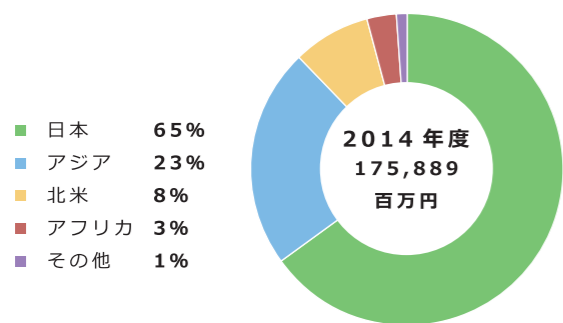
事業内容: 鋼板加工、塗装鋼板製造  
Amatanakorn Industrial Estate, 700/614 moo7,  
Muang, Chonburi 20000  
Tel: 010-66-38-454-381



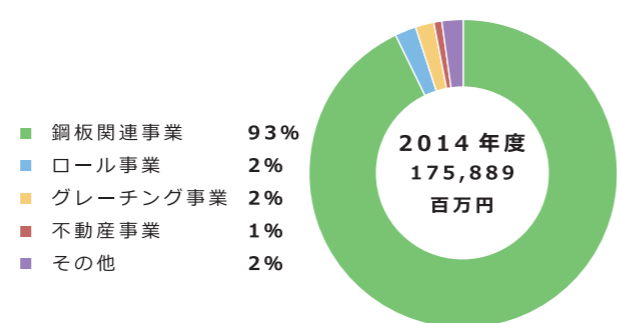
財務情報 [連結]



地域別売上高構成比



セグメント別売上高構成比



ウェブサイトによる会社情報提供

株式会社淀川製鋼所ウェブサイト  
http://www.yodoko.co.jp/



CSRの取り組み

http://www.yodoko.co.jp/eco/index.html



I R 情報

http://www.yodoko.co.jp/ir/index.html



ヨドコウ迎賓館

http://www.yodoko.co.jp/geihinkan/

社会貢献活動の一環として、フランク・ロイド・ライト (Frank Lloyd Wright / 1867 ~ 1959 年) 設計の国指定重要文化財「ヨドコウ迎賓館」(旧山邑家住宅) の一般公開を行っております。